

# 豊二校だより

## 学力調査特別号

令和元年(2019年)11月15日 No. 9

吹田市立豊津第二小学校

吹田市江坂町2丁目5番1号

Tel 6386-0861 FAX 6386-8743

http://www2.suita.ed.jp/school/es/16-toyo2/

### 平成31年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として『平成31年度全国学力・学習状況調査』を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

### 1、教科に関する調査結果の分析 (△…上回っているもの,▼…下回っているもの,◇…同じもの)

#### ●国語 (14問 45分)

《概要》 本校児童の正答率は、全国の平均とほぼ同じであった。

《各領域における成果と課題》

話すこと 聞くこと	△話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることでは、全国値をやや上回っている。 ▼話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をすることでは、全国値をやや下回っている。 ▼目的に応じて、質問を工夫することでは、全国値をやや下回っている。
書くこと	△目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことでは、全国値を上回っている。 ▼図表やグラフなどを用いた目的を捉えることでは、全国値をやや下回っている。
読むこと	▼目的に応じて文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にして読むことは、全国値を下回っている。 ▼目的に応じて文章全体を概観して効率的に読むことは、全国値をやや下回っている。
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	△日常生活で使われている慣用語の意味を理解して使うことでは、全国値を上回っている。 △▼主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことでは、全国値をやや上回っているが無解答率がほかの問題に比べて高くなっている。

#### 国語科における成果と今後の改善点について

書くことや伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、設問によって下回っているものもあるが、全国値と同じ、またはやや上回っています。朝学習や学校の研究テーマである「自分の考えを書いて表現するための説明文指導」などの成果をみることができます。

話すこと・聞くことに関しては、話し相手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめることはできています。しかし自分の理解を深めるために、相手の意見に質問をしたり、その質問の内容を工夫して聞いたりすることに課題がみられます。授業に話し合い活動を取り入れることで、相手のことを意識して聞く、そして話すということ子どもたちが意識できるよう学習活動を工夫していきます。

読むことに関しては、文章に何が書かれているかということを的確に読み取ることや文章全体を俯瞰して読むことに課題がみられます。授業で読み取ったことや文章全体で自分が何を学び、何を考えたのかということが分かるようノート指導を行うことやふりかえりを書くことで力を伸ばしていけるよう指導を工夫していきます。

#### ●算数 (14問 45分)

《概要》 本校児童の正答率は、全国値を上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

数と計算	△減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質について言葉を用いて記述する問題では、全国値を大きく上回っている。 △示された計算の仕方を解釈し、除数の式を計算しやすい式にして計算する問題では、全国値を大きく上回っている。
量と測定	△示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を記述で説明する問題では、全国値を上回っている。 △資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述する問題では、全国値を大きく上回っている。
図形	△図形の性質や構成要素に注目し、ほかの図形を構成する問題では、全国値を大きく上回っている。
数量関係	△資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では全国値を大きく上回っている。 ▼棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題は、全国値をやや下回っている。

#### 算数科における成果と今後の改善点について

全体として全国値を上回り、日々の授業における少人数指導や算数タイム、学保タイムでの積み上げの成果がみられます。全国値と比べると無解答率は低い傾向ですが、その中でも面積の求め方の説明を言葉や式を使って書いたり、計算の性質について書いたりする記述式の問題では無解答率が高くなる傾向がみられます。

これらの結果を踏まえ、算数科の授業では、既習の内容を使って問題への見通しをもち、自分の考えを図、式、言葉などで表現し、自力解決できるよう今後も指導を続けていきます。また、日常生活の問題解決のために、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりする学習活動を工夫していきます。また日常生活には、算数で学習したことを活用できる場面があり、表やグラフは他教科の学習にも用いられています。算数で学んだことを他教科の学習につなげる学習も展開していきます。

さらには、今年度同様、授業以外の算数タイムや学保タイムにおいて図形問題や文章問題、四則計算問題などの既習内容の定着に引き続き力を入れ伸ばしていきます。

## 2、児童アンケートに関する調査結果の分析

授業等学校生活に対する意識	国語について	<p>△授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼授業が好きだと答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼授業の内容がよく分かると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p>
	算数について	<p>△授業が好きだと答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>△授業の内容がよくわかると答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p> <p>△問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p> <p>▼授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えると答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p>
	その他	<p>△学校のきまりを守っていると答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p> <p>△いじめは、どんな理由があってもいけないことだと答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△学級みんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがあったと答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△学校の授業時間以外に、勉強をすると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>△道徳の授業で、自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼調査問題の解答時間が十分だと答えた児童は、国語において全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼昼休みや放課後、学校が休みの日に本や新聞を読んでいる児童は、全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼ICTを活用した授業に関する質問では、よく使用したと答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p>
家庭や地域での生活に対する意識		<p>◇朝食を毎日食べていると答えた児童は、全国値とほぼ同じである。</p> <p>▼毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p>
自己肯定感に関する意識		<p>△自分には、よいところがあると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△先生は、自分のよいところを認めてくれていると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>△難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△将来の夢や目標を持っていると答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p>

## 3、今後の取り組み

本校では、昨年度よりコミュニケーション力の向上を目指して、国語科の授業研究に取り組んでいます。以前より取り組んできた本校の研究主題「自ら考え、表現し、伝え合う子どもの育成」をより進めるため、昨年度に続き、自分の考えをまとめ表現し、友だちの意見を聞いて考えを練り上げていく主体的な学習活動を多く取り入れていきます。また、学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫、授業研究を一層進めていきます。さらに、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童の自己肯定感を高め、自立と幅広い学習の機会をつくるため、次のように取り組みを進めます。

### 【学力向上について】

- 自分の考えを文にまとめたり説明したり意見を発表しやすくするために、豊津西中ブロックで取り組んでいる「思考ツール」を使う機会を、今後も引き続き日々の授業に取り入れていきます。また、学習のスタンダードである「**めじつたふ**」(めあて・自分の考え・伝え合い・確かめる・振り返り)や、伝え合いの「話型」の掲示物等を活用し、自分の考えを広げ、伝え合い、考えを深める機会を授業の中で増やしていき、児童がより学ぶ意欲を高める授業づくりを進めます。
- 家庭学習においては、時間の使い方や、学習内容などのポイントを学級で指導していくとともに、わかりやすく整理した「家庭学習のすすめ」の情報を発信し、効果的な家庭学習の啓発に努めます。
- 新しくPC室に導入されたタブレットパソコンや、書画カメラ等のICT機器を活用し、さらなる学習の意欲向上と、理解力向上へつながる授業の研究と実践に取り組んでいきます。

### 【授業規律・生活規律について】

- 生活目標については、意識が高まるよう毎月の集会で確認し、ふり返しカードを使って一人ひとりが目標を振り返るなど意識を高め、よりよい行動につながる機会を今後も大切にしていきます。
- 携帯電話やスマートフォン、パソコンの使用方法や、正しいSNSの使い方、情報モラルなどを、引き続きPCサポートの方からも指導してもらい、さらにゲストティーチャーを招き指導してもらう機会を設けていきます。
- 豊津西中ブロックでは、様々な連携をしており、授業規律を3校で揃えていくことや、生活規律の課題についても3校で検討し合い、解決に向けて推進していきます。

### 【仲間づくりについて】

- 全校縦割りによる異学年集団の活動「あすなろ活動(清掃活動、あすなろ遊び、七夕の飾りつけ、折り鶴作りなど)」を通して、学校全体の豊かな仲間関係を作り、思いやりの心を育てるとともに、特に高学年においては、リーダーとしての自覚と責任感を育て、自己肯定感を高めていきます。
- 生活アンケート(学期に1回)や学校アンケートを実施し、子どもたちの様子をきめ細かく把握し、子どもたちが困っていることや悩んでいることに早期に寄り添い、解決するように努めます。

### 【規則正しい生活習慣について】

- 全校児童に実施した「生活習慣調べ」では、1年生から22時を過ぎて就寝する児童が約3~4割みられ、特に、5・6年生では22時を過ぎて就寝する児童の割合が70~74%という高い結果でした。生活習慣が夜型傾向となっている児童が大きく増えている実態が明らかとなりました。塾、習い事など放課後の過ごし方の多様性のみならず、帰宅してからの子どもたちの過ごし方に課題が伺える結果でした。
- 「生活習慣調べ」で、朝食の未摂取率は6年生は2%の結果でしたが、学校全体では約4%であり、これまでよりも朝食を食べていない子どもが増えている状況がわかりました。
- 「生活習慣調べ」で、体調がわるいと答えた児童は、6年生では5%、学校全体で6%となり、毎日の睡眠習慣に関連して、一日の体のサイクルが整っていない児童が増えている状況がみえてきました。
- これからも引き続き、児童には、自分の生活習慣を見直し、生涯にわたって健康な毎日を過ごす習慣が身につくよう指導に取り組むとともに、保護者への情報発信等にも取り組んでいくよう努めます。